

田原市市民協働まちづくり会議情報交換会 議事録

1 日 時	令和3年3月26日（金）午後6時～8時
2 場 所	田原市役所南庁舎6階 600会議室
3 出席者	【委員】 三矢勝司、渡会美加子、山本五男、小澤美穂子、高崎雄三、石川恵史 【事務局】 大羽課長、河口課長補佐兼係長、下形主事補
4 連絡事項	1 あいさつ 2 報告事項 （１）令和2年度市民活動支援制度の活用状況について （２）令和3年度の市民活動支援制度について （３）市民活動支援センターの運営について （４）企業ボランティアについて 3 その他 （１）各主体の取り組み（委員連絡票） ○意見交換 等

会議内容要旨

事務局：会議資料の確認

1 あいさつ

○会長よりあいさつ

2 報告事項

（１）令和2年度市民活動支援制度の活用状況について

○事務局：資料1について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・新規団体活動補助金を活用したサイクルツーリストのサポートはニーズがあるのか。
→今回はナショナルサイクルルート認定に向けての活動の一つとして、実際に市民活動で事業を行ってくれたものになる。
- ・渥美半島は風光明媚である一方で、風が強いのがサイクリストにとってマイナス面になると考えられる。
- ・風が強いのをマイナスと捉えるのではなく、個性としてPRすると他のサイクルルートと差異が図れて良いと思う。

（２）令和3年度の市民活動支援制度について

○事務局：資料2について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・全体的に補助金の予算が削られているが、実績の有無が削減に関係していると推測する。その要因は周知不足のためなのか、補助金のメニューが使いにくいいためなのか皆さんの意見を聞き

たい。

→コミュニティでも活動に対する補助金をいただいているが、その活動を続けるので精一杯。そもそも補助金を活用しようとする人の絶対数が少ないと思う。

- ・補助金がなくても地域社会が回っていれば問題はない。しかし、地域課題があり、市民の力で課題解決に取り組もうとする人に使われていないと問題だと考える。
- ・コミュニティと市民活動を合わせた活動が広げられれば良い。
- ・自治会の担い手が不足しており、現役世代にどうつなぐかが課題となっている自治体もあるが、田原市はどうか。

→現在のコミュニティ活動としては、SNSを活用した情報発信を始め、様々な行事を開催したり、高齢者の集まる場を創出したりと多様な活動を行っている。

- ・自治会や市の職員は数年で変わってしまうため、新しい取組を打ち出すのが難しい。
- ・地域課題を解決したいと考える人が、実際に活動を起こすための場をつくること（語りの場）と併せて、補助金によるサポートができると良い。東海労金が行っている活動を参考にされてはどうか。（資金面のサポートに加えて、活動計画を立てるのを支援する等。）他にも、現状の制度について語り合う場があってもいいと思う。
- ・時代のニーズに合わせてより使いやすい支援制度に変えていきたい。

（３）市民活動支援センターの運営について

○事務局：資料３について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・実際に市民活動支援センターを運営しているが、開設日時が限られているため、窓口対応をしたくてもできないジレンマがある。
- ・窓口で待っているだけではなく、限定的でもまちに出向く活動をするのはどうか。市民館に赴く等、アウトリーチ型で市民活動の可能性を探ってみると良いと思う。また、市民活動支援センターの人材育成に手が出せていないということなので、センターの担い手育成の議論もできると良い。

（４）企業ボランティアについて

○事務局：資料４について説明

３ その他

（１）各主体の取り組み（委員連絡票）

○事務局：資料５について説明

午後８時閉会